

病害虫発生予察特殊報  
第 1 号

昭和 5 6 年 7 月 10 日  
東京都農業試験場

病害虫名: イネドロオイムシ

発生地域: 八王子市上川口

発生状況

本虫はしばしば冷害を被りやすい北海道、東北地帯や山地に発生するが、都下における発生ははじめてである。現在、八王子市川口の谷戸田水田約 20 a に被害が確認されているが、その他の山間部の水田でも発生している可能性があり、充分注意されたい。

加害は苗代から本田中期にかけて葉先をたてに葉肉を食うため、白い食いあとが目立つようになる。多発すると、田全体が真白になり、著しい減収を引き起す。

虫の特徴

成虫は体長 4 ~ 5 mm の甲虫で頭は青らん色、脳と脚は黄褐色で美しい。幼虫は背に自分の糞を背負っており、それがドロのように見えるので「泥負虫」の名がある。日 1 回の発生で幼虫は 6 ~ 7 月上旬、成虫は 7 ~ 8 月はじめに出てくる。

対 策

発生をみたら次の薬剤のいずれかを散布する。

スミチオン粉剤		
バイジット粉剤		10 a 当たり 3 ~ 4 kg
ダイアジノン粉剤		
エルサン乳剤		1000 倍液
カルホス乳剤		
ダイアジノン粒剤		10 a 当たり 3 ~ 4 kg
デナポン微粒剤下		